

学校教育目標

とみえの子「徳・未来・英気」

5月の振り返り

- ◎ ピンチをチャンスに変えた1ヶ月！
 - ・天気予報に振り回された運動会 } 保護者の理解・協力によって乗り切れた！
 - ・登下校の緊急対応
- ◎ 学校のシステムが軌道に乗った。→ 清掃等の取組、業間SSTの取組

良かった点

- 運動会の達成感（ここ4年間で最高）
 - 大半の子供たちが、「頑張ることが当たり前」になった。
→ 終わった後の達成感！
- 「あいさつ」の大ブースト！
 - 「名前＋あいさつ」が浸透
 - あいさつが増えれば、笑顔も増える

気になる点

- 一部児童の不応
 - ・運動会に向けて頑張っている子供たちとのギャップがくつきり。
→ 努力しないで、「楽しかった」という結果に満足させたくない。
- 時間割を知らない子供が多い。
 - ・「○時間目、何だったっけ？」という反応多し→ 日課を自分で判断できていない？



「魔の6月」を吹き飛ばそう！

※富江っ子の心をしっかりと見つめよう
※非認知能力育成を意識して、指導法の工夫を積み重ねよう

趣 旨

留 意 点

- 6月に子供が荒れる要因を認識し、対応する。
 - 4月の緊張感
 - 5月のGW変則日程、運動会
 - 6月低気圧の停滞、高温多湿

- 4～5月の新鮮さが失われる。
- 発達凸凹の子供たちにとって、「低気圧」は脳内の不安を引き起こす。
 - ◎ 「新しい、楽しい活動」を計画する。
 - ◎ 協力して創意工夫する活動を保障する。

- 「分かる・できる」授業
 - 授業のねらいを明確にする
 - 思考を促す発問
 - 明確な作業指示
 - 教師の短い語り
 - まとめ・振り返り

- 学校生活の大半は授業。わくわくさせたい。
- 全てを「教え込む」のではなく、「考えを引き出す」発問の工夫。
- 教師が「教えたい」「言いたい」を我慢し、子供に「言わせる」「表現させる」。
- 本時で「何が分かったか」「できるようになったか」メタ認知させる。

◎ 学力向上プランを全職員が意識し、足並みを揃えて取り組む

- 個人研究テーマ、業績評価目標を意識して、実践を進める
 - 「非認知能力の育成」を意識して、指導法の工夫をする。

- 結果だけを見て子供たちを評価するのではなく、「やろうとしていること」を見逃さずに声かけをする。
- お互いの研究テーマを開き合い、相互にアイデアを出し合いながら、指導法の工夫を模索する。

- 道徳教育の推進
 - 心を見つめる教育週間の充実

- 道徳科授業で道徳性を養う
- 道徳的行為を主体的に選択し、実践する場の設定

- 心を耕す読書

- 読書量に加えて、読書の質にもこだわりたい

意識を揃えて取り組もう

- 安全に気を付けよう

- ・「は・さ・み」歩きをがんばろう
- ・交通ルールを守ろう